

試験研究成果普及情報

部門	稲	対象	普及
課題名：早生の WCS 用イネ品種「つきはやか」の特性			
<p>[要約] WCS（ホールクロップサイレージ）用イネ品種「つきはやか」は、4月下旬移植の「たちあやか」より10日程早い7月23日頃に出穂期となり、8月上旬から収穫可能な早生品種である。穂重割合は約18%と少ない茎葉型で、現物収量は約3 t /10aである。</p>			
キーワード イネ、WCS、「つきはやか」、早生品種、茎葉型			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所 水田利用研究室	
	協力機関	農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所 水稻温暖化対策研究室	
実施期間	2017年度～2018年度		

[目的及び背景]

本県では米の生産調整及び耕畜連携を図るために、飼料用米及びホールクロップサイレージ（発酵粗飼料、以下、WCS）用イネの生産を推進している。WCS用イネ品種（茎葉型品種）の収穫適期は、良質な発酵品質を得るため、稲体の水分が65%以下となる出穂10～40日後とされ、収穫作業は稲体に付着水が無い状態で行う必要があるため、降雨時には行えない。

本県の温暖地早期栽培に適している WCS 用イネ品種では「たちあやか」が最も早生だが、4月下旬移植での出穂期は8月第1半旬である。収穫は8月第3半旬から可能であるが、これ以降は主食用米品種と収穫作業が競合するだけでなく、降水量が増加する傾向にある。また、コントラクターが大面積の収穫作業を請け負う現場からは、良質な WCS を生産するために、計画的に適期収穫を進められるよう晴天が期待できる8月上旬から収穫可能な早生品種が求められている。

そこで、当センターにて平成29～30年に早生の WCS 用イネ系統として試験した「中国飼224号」が令和2年に「つきはやか」として品種登録出願されたので、本県での生育及び収量を取りまとめた。

[成果内容]

- 1 香取市の砂壤土の圃場において、副資材入り牛ふん堆肥2 t /10aを3～4年連用し、塩安のみで窒素量、基肥9 kg /10a（代かき時）及び穂肥3 kg /10a（幼穂形成期）を施用した条件で、「たちあやか」と「つきはやか」を4月下旬移植で栽培し、生育及び収量を比較した。
- 2 「つきはやか」は7月23日頃に出穂期となり、「たちあやか」より約10日早く、8

月上旬から収穫が可能である（表1、写真1）。

- 3 「つきはやか」の幼穂形成期の草丈及び稈長は「たちあやか」と同程度だが、幼穂形成期の茎数及び穂数は少ない（表2）。
- 4 「つきはやか」の出穂後24～32日の現物収量は約3 t/10aであり、「たちあやか」より約0.7 t/10a少ない（表1）。
- 5 「つきはやか」の現物収量に占める穂重割合は約18%と小さい茎葉型品種であるが、「たちあやか」に比べると大きい（表1、写真2）。
- 6 「つきはやか」を出穂後24～32日に収穫した時の稲体の水分含有率は約57%で、「たちあやか」を出穂後25～27日に収穫した時の約64%より低い（表1）。
- 7 「つきはやか」の苗は「たちあやか」と葉齢は同程度だが草丈及び第一葉鞘高が短く、地上部乾物重は大きく充実している（表3）。
- 8 以上の結果から、「つきはやか」の4月下旬移植で「たちあやか」より約10日早い8月上旬から収穫が可能であり、約3 t/10aの現物収量が得られる。

[留意事項]

「つきはやか」は縞葉枯病抵抗性をもっているが、「たちあやか」は縞葉枯病抵抗性をもっていない。

[普及対象地域]

県内全域

[行政上の措置]

[普及状況]

令和3年度香取地域にて試験栽培を実施。

[成果の概要]

表1 生育ステージ、収量、穂重割合及び稲体水分含有率

品種名	試験年	移植日	幼穂形成期	出穂期	収穫調査日 (出穂後日数)	現物収量 (t/10a)	現物収量に占める穂重割合 (%)	稲体の水分含有率 (%)
つきはやか	平成29年	4月21日	6月29日	7月23日	8月24日 (32日)	2.8	19.5	56
	平成30年	4月24日	7月1日	7月23日	8月16日 (24日)	3.1	16.7	58
たちあやか	平成29年	4月21日	7月3日	8月2日	8月27日 (25日)	3.5	11.8	64
	平成30年	4月24日	7月10日	8月2日	8月29日 (27日)	3.8	7.9	64

注1) 試験圃場は農林総合研究センター水田利用研究室（佐原市）の水田圃場（中粗粒強グライ土）

2) 試験圃場は平成27年から1～2月に副資材入り牛ふん堆肥2 t/10aを連年施用

3) 移植日は平成29年が4月21日、平成30年が4月24日

4) 施肥は塩安のみで窒素量で基肥9 kg/10a（代かき時）、穂肥3 kg/10a（幼穂形成期）

表2 幼穂形成期及び収穫時の生育

品種名	試験年	幼穂形成期		収穫時の生育		
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
つきはやか	平成29年	75	272	95	20.2	260
	平成30年	87	265	104	18.8	251
たちあやか	平成29年	69	422	96	17.5	319
	平成30年	98	375	104	16.6	352

注1) 収穫時の生育の調査日は表1の収穫調査と同じ

2) 以下の注は表1と同じ

表3 苗質

品種名	試験年	播種日	調査日	葉齢	草丈 (cm)	第一葉 鞘高 (cm)	地上部 乾物重 (g/50本)
つきはやか	平成29年	3月29日	4月21日	2.4	15.4	4.6	1.1
	平成30年	4月4日	4月24日	2.2	17.8	5.1	1.1
たちあやか	平成29年	3月29日	4月21日	2.3	20.0	5.8	1.0
	平成30年	4月4日	4月24日	2.2	20.7	5.6	0.8



写真1 出穂期頃の「つきはやか」(左)と出穂前の「たちあやか」(右)

(令和3年7月26日農林総合研究センター水田利用研究室の水田圃場で撮影)

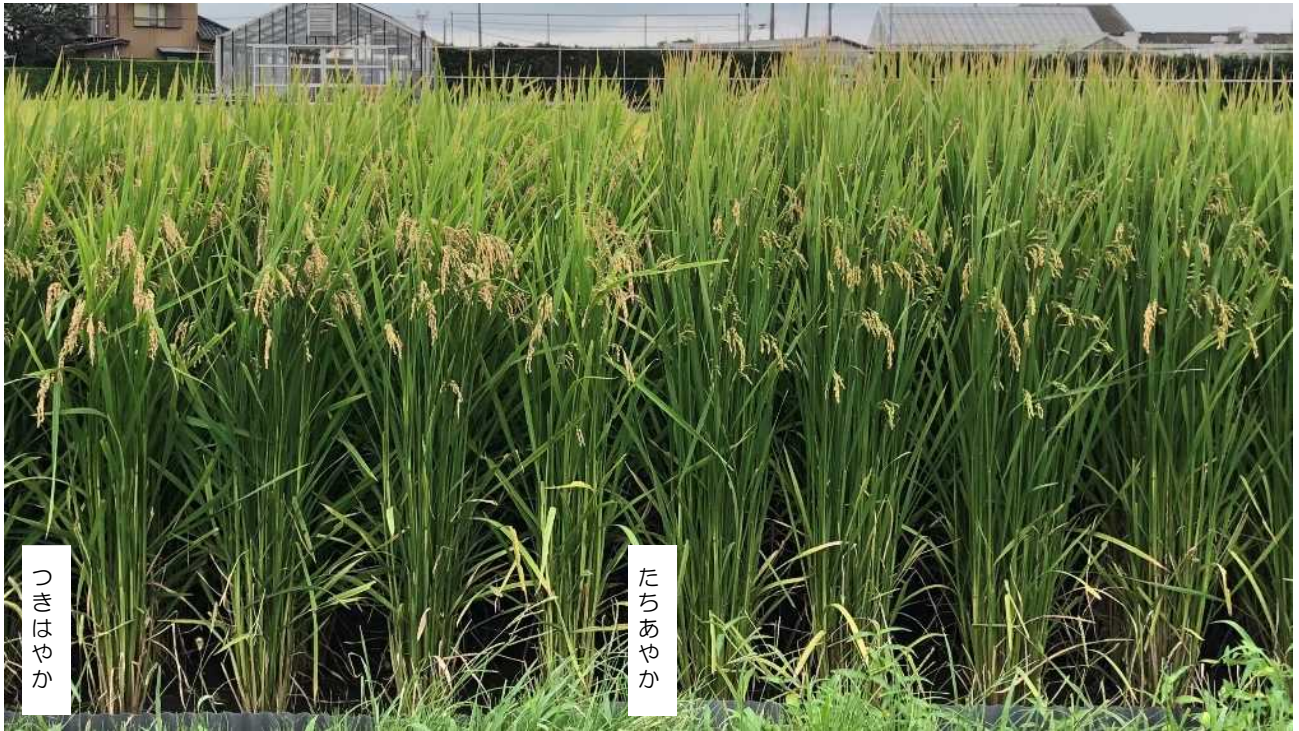


写真2 8月下旬の「つきはやか」(左)と「たちあやか」(右)

(令和3年8月24日農林総合研究センター水田利用研究室の水田圃場で撮影)

[発表及び関連文献]

令和3年度試験研究成果発表会(作物部門)

[その他]